

磐城商工時報

月刊三回發行
 發行所 磐城商工時報社
 印刷所 加納活版所
 廣告料 別紙
 訂價 別紙
 電話 二五五

私の年頭感

渡邊源吉

大行天皇の崩御を悲しみ奉りて同胞赤子が哀悼の涙いまだ干かざるに、今上天皇陛下の下に希望に充つる昭和二年の新春を迎ふることは誠に感慨に堪わざる次第である。惟ふに激測として非常なる希望に燃ゆる新帝には、御政時代より國民の福を念とし給ひ常に民草を慈しむ其御心事ははかり知るに長に當り農村社會の實情を見るに起つて昭和二年を迎ふるに當り農村社會の實情を見るに國家永遠の福祉にとつて憂ふ可き幾多の現象が存在するのである中につきて今や全國的に蔓延し農村の平和を脅威しつゝある小作争議がある、石城地方には近年労働運動が熾烈になり坑夫の自由と権利、生活の向上の爲めに一段の努力を續けんとしてゐる、労働運動の火蓋は將に切つて落されたのである、當然農村にも起きねばならぬものはこの小作争議である、然して其性質も次第に深刻となり錯雜なる社會經濟問題として農村に大なるなぞを提供してゐる、更に又農村青年子女離村の現象は著るしいものである、これ等の根本原因は農村文化が一般文化の進歩發展と併行せざりし点にある、換言すれば、十九世紀より二十世紀にかけての目覚ましい文化の進歩發展は單なる都市文化の進歩發展であつて農村文化の進歩發展でなかつたのである。

かく複雑なる事態に對しては到底一元的解案を下す事は困難であるが、まづ小作問題に對して政府は小作調査會を設置しその答申に基づき目下小作法の審議を行つて居る、又小作争議の緩和策として小作農を轉じて自作農たらしむることは現下の農村状態に於てもつとも事情に適したものであるから政府は大正十五年以降低利資金を融通する豫定をもつてこれが助成を行はんとして居る。

(三) 更に農村問題と最も密接の關係あるは人口及び食糧問題であるが、此の問題に關しては他日に譲ることとし、財界に就而一言したい、我國の經濟界は徐々として堅實なる好景氣に向ふ可く、一步一歩其道程にある事である、嘗て大正七八年當時の好景氣は眞に健康なる好景氣である、健康に進行する好景氣は、順調なる歩調を以て比較的永續すべきものであると信するものである、この意味に於て余は、一步一歩健康なる好景氣に向ひつゝある現在の實状を見て、頗る樂觀する一人である。

銀行合同 實現を劃る

百萬元以下の銀行

銀行合同の對策については大藏省に於ては常に苦心しつゝあるが、財界の實情に照しこれが徹底的實現を期すことは刻下の急務であるといふ見地より全國二三流銀行の合同促進に力を入れ、これ等二三流銀行の合同を實現せしめねばならぬ事情にあるので特にこれが合同については地方長官を督勵して合同の實現を舉げしむることに努めてゐる、即ち金融制度調査會の普銀制度改善案に於て資本金を百萬元に決定しこの機會に資本金百萬元以下の銀行はこれを合同せしむることに努め一定期間内に資本金を法定額に増資することを欲してゐない、何んとなれば大藏省の意圖は銀行は大體一府一行主義をもつて理想としてゐる、本縣下に於ける百萬元以下の資本を有する銀行は二十五行にして次の如くである。

- ▲猪苗代銀行、磐城銀行、磐城實業銀行、原町銀行、磐越銀行、磐東銀行、二本松銀行、新山銀行、川俣銀行、四倉銀行、田村實業銀行、棚倉協同、田島銀行、第百壹銀行、相馬銀行、浪江銀行、矢吹銀行、小高商業銀行、小濱實業銀行、共立銀行、信達銀行、白河實業銀行、瀨谷銀行、須釜銀行、須賀川銀行

諒闇中に付き
 新年の賀詞御遠慮申上候

久之濱商事株式會社

社長 堀部留造

東部電力株式會社

平營業所

所長 武田精一

縣會議員 (イロハ順)

井上茂作
 野上晋平
 野野順平
 川野傳一
 古草一平

代議士 比佐昌平

磐城銀行

專務 白井一郎

株式相互ヲ兼有シ

横濱生命保險株式會社

平代理店主 中野甲藏

特色 初年度ヨリ利益配當ス

鈴木辰三郎

平町會議員

野崎滿藏

やまご醤油株式會社

社長 白井一郎

常務取締役 遠藤俊一郎

石城銀行組合

加 活 販 所